

商品別見通し(輸出)

2021年12月2日(木)

品目	2020年度 (実績)		2021年度 (見込み)				2022年度 (見通し)				コメント		
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%			
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%							
<b>総額</b>	69,486	▲8.4%	41,465	+34.2%	42,430	+10.0%	83,895	+20.7%	↑	85,984	+2.5%	コロナ禍からの世界的な経済正常化に伴い、幅広い品目で輸出数量が増加する。	21年度に大幅に拡大した輸送用機器、一般機械、電気機器などの輸出が安定的な増加に転じる。
EX 01 食料品	840	+12.9%	490	+27.7%	498	+9.0%	988	+17.5%	→	986	▲0.2%	コロナ禍からの回復による強い外需を受けて全体的に20年度を上回る水準で推移。魚介類は20年度、主要輸出先の中国で新型コロナウイルス対策の一環として輸入水産品検査が強化されたことなどにより落ち込むものの、21年度は大きく持ち直す見通し。さらに、世界的な食品価格の上昇や金額の底上げも寄与。	食料品需要の長期的な拡大トレンドに加え、30年までに農林水産物や食品の輸出額5兆円達成を目指す政府の輸出支援も後押しとなるものの、価格の下落もあり21年度からは微減。
EX 02 原料品	1,090	+4.6%	746	+64.9%	672	+5.3%	1,418	+30.1%	↓↓	1,252	▲11.7%	上半期は金属鉱やゴムなどの価格高騰により大きく輸出金額が上振れたものの、国内の生産能力が限られることもあり、数量に関してトレンドから大きく乖離する動きは見られず。下半期は自動車の減産など下流製品の供給動向を受けて上半期からやや下振れる見通し。一方、繊維はコロナ禍前を下回っており、回復途上。	商品価格は22年度には落ち着き、数量も21年度の需要を上回る材料は見られないことから、21年度を下回る見通し。
EX 03 鉱物性燃料	613	▲54.5%	451	+70.6%	824	+136.2%	1,275	+107.9%	↑↑	1,545	+21.1%	原油価格の上昇、海外需要拡大により価格が上昇。数量は、軽油などが市況回復に伴う輸出採算改善を背景に増加。ジェット燃料需要は回復の兆しが見られるものの、いまだコロナ禍前には及ばない。	軽油のアジア向け、豪州向けの堅調が持続。また、国際線航空機向けのジェット燃料需要が拡大し、21年度を上回る見通し。
EX 04 化学製品	8,861	+2.0%	5,298	+31.4%	5,557	+15.1%	10,855	+22.5%	↓	10,584	▲2.5%	プラスチックなど多くの品目が増加する。数量はコロナ禍からの生産活動の回復により増加し、価格は原油価格の変動を一因に上昇する。用途別では、消費財関連のプラスチックはコロナ禍を問わず底堅く、また、半導体関連は全般に伸長が続き、農業、触媒、添加剤なども増加する。	21年度下半期と大きく変わらない。グローバルな化学製品需要は中長期的に緩やかな増加が持続するが、中国を含むグローバルな製造業生産の伸びの鈍化を背景に高水準で、ほぼ横ばいとなる見通し。
EX 05 原料別製品	7,601	▲9.6%	5,026	+44.8%	5,693	+37.8%	10,719	+41.0%	↑	10,915	+1.8%	全体として20年度から大幅に増加する見通し。海外経済の活動再開とともに、価格が急上昇し、数量も回復に向かう。	世界経済の回復基調が継続することもあり、21年度から小幅に増加する見通し。
鉄鋼	2,542	▲18.1%	1,953	+65.4%	2,027	+48.9%	3,980	+56.6%	↑	4,020	+1.0%	下半期は、数量は一部国内高炉の休止もあって上半期からやや減少する一方で、価格が上半期から上昇するため、輸出金額はやや増加する見通し。	一部国内高炉の休止もあり、数量は21年度からやや減少する一方で、21年度下半期から高止まりするため、輸出金額はやや増加する見通し。
非鉄金属	1,683	+19.2%	1,037	+33.1%	1,363	+50.9%	2,401	+42.6%	↑	2,469	+2.8%	銅: 価格が上昇基調を維持する一方で、数量も20年度に比べて大幅に増加するため、金額は大幅に増加する見通し。 アルミニウム: 価格は上半期から上昇傾向が継続する一方で、数量は中国向けなどを中心にほぼ横ばいを維持するため、金額は増加する見通し。	銅: 数量・価格ともに引き続き高水準を維持するため、金額は21年度からやや増加する見通し。 アルミニウム: 価格は落ち着きを取り戻す一方で、数量は21年度から横ばいで推移するため、やや減少する見通し。
織物用糸・繊維製品	578	▲17.5%	333	+25.4%	336	+7.4%	669	+15.6%	↑	693	+3.6%	増加に転じる。世界景気が持ち直すなかで、衣料素材などの生活関連用途、機械資材などの産業用途ともに数量が回復。加えて、原材料高の影響を受け価格も上昇。ただし、自動車用資材は、サプライチェーン混乱のなかで弱含み。	緩やかな増加が続く。半導体不足などのサプライチェーンの混乱が徐々に解消に向かい、自動車向けも底打ちする見通し。
非金属鉱物製品	744	▲9.6%	446	+30.2%	449	+11.7%	895	+20.2%	→	899	+0.5%	ガラス: 回復傾向にあるが、海外の自動車減産や住宅投資需要の落ちつき、国内の住宅需要拡大で下半期の伸びは緩やか。 セメント: 足元は増加傾向だが中国の不動産市場懸念などを見込み、下半期は横ばい。 真珠: 19年度から続く真珠養殖用アコヤガイの大量死が重しとなるも、展示販売会再開などで持ち直し。	ガラス: 自動車需要の戻りなどによりさらに輸出は伸びるものの、生産拠点の海外移転で日本国内の生産能力は限定的であることから伸びは緩やかになる見通し。 セメント: 21年度並みで推移。 真珠: 堅調に拡大。
ゴム製品	703	▲19.4%	441	+40.5%	466	+19.8%	907	+29.1%	↑	933	+2.9%	大幅増に転じる。6割超を占めるタイヤ需要が新車用・買い替え用ともに回復し、数量を押し上げ。価格も、原材料価格の高止まりを主因に上昇。ただし、自動車生産の滞りや輸送費の高騰などから、下半期の数量の増勢は鈍化。	緩やかな増加が続く。自動車の生産制約が徐々に解消に向かうなかで、タイヤ需要の回復基調が続くため。ただし、価格は原材料価格の落ち着きにより、次第にピークアウトする見通し。
EX 06 一般機械	13,480	▲7.8%	8,168	+35.4%	7,134	▲4.2%	15,302	+13.5%	→	15,381	+0.5%	半導体メーカーの設備投資意欲が強いなか、半導体等製造装置の需要拡大が続く。その他の機械では、20年度の上半期に大きく落ち込んだ反動で高い伸びを続けてきたこともあり、下半期は緩やかな回復ペースに落ち着く見通し。	データセンターや5G関連の需要が見込まれ、半導体等製造装置が堅調に推移する見通し。一部機械は、環境規制の高まりにより、様子見の状況が続くとみられ、ほぼ横ばいで推移。
原動機	2,139	▲19.2%	1,211	+32.8%	1,078	▲12.2%	2,289	+7.0%	↑	2,312	+1.0%	環境規制の高まりにより弱い動きが続く見通しも、発電用の更新・維持向けの需要は続く見通し。	新型コロナウイルスの収束後も環境規制の厳格化が進むなかで弱い動きが続く見通しも、高効率製品への更新需要などが下支えするとみられる。
EX 07 電気機器	13,157	▲0.7%	7,610	+26.0%	7,520	+5.6%	15,130	+15.0%	↑	15,740	+4.0%	新型コロナウイルスのワクチンの普及などによる経済活動の回復が進むなか、半導体需要は拡大しており、特にサーバー市場におけるAI需要、5G対応、果ごもり需要などの高水準な需要が続き、大幅な増加となる見通し。	半導体などの部品供給不足による生産影響が懸念されるなか、データセンターや5G対応を中心とした半導体関連の高い需要が継続し、21年度比で増加となる見通し。
半導体等電子部品	4,217	+3.1%	2,392	+17.4%	2,410	+10.6%	4,802	+13.9%	↑	4,995	+4.0%	生産活動の再開が進むなか、スマートフォンなどの電子機器の高機能化や5Gの普及、データセンターの増強を背景に20年度比で大幅な増加となる見通し。	半導体や電子部品の供給不足が懸念材料ではあるが、データセンターや5G対応を中心とした半導体関連の高い需要は拡大しており、21年度比で増加となる見通し。
電気計測機器	1,560	▲3.5%	924	+30.2%	840	▲1.3%	1,763	+13.0%	↑	1,816	+3.0%	5G技術搭載機器やデータセンター関連機器への投資増加を背景に20年度比で大幅な増加となる見通し。	5G、データセンター関連投資の需要拡大が続き、21年度比で増加となる見通し。
EX 08 輸送用機器	14,317	▲19.2%	7,922	+36.4%	8,492	▲0.2%	16,414	+14.6%	↑	17,655	+7.6%	自動車関連は、上半期は主要輸出先である米国および中国の経済回復を主要因に大幅に回復も、下半期は半導体不足および東南アジアでの新型コロナウイルス再拡大により、回復ペースは鈍化。 船舶も世界的な経済活動の回復により受注は回復傾向にあるものの、20年度を下回る見通し。	自動車関連は新型コロナウイルスの収束による東南アジアなどをはじめとするサプライチェーンの混乱の解消を見込み、数量・金額ともに19年度水準へ回復となる見通し。 船舶は新型コロナウイルスの影響から回復するも21年度比減は避けられない見通し。ただし収益好調な船会社側から、新型船舶や追加受注の可能性は残る見通し。
自動車	9,511	▲19.0%	5,196	+36.7%	5,776	+1.2%	10,972	+15.4%	↑	12,022	+9.6%	上半期前半は主要輸出先である米国の経済回復を主要因に、大幅に回復するも、半導体不足および東南アジアでの新型コロナウイルス再拡大による部品調達に困難となり、緩やかな回復にとどまる見通し。	新型コロナウイルスの収束を背景に東南アジアなどをはじめとするサプライチェーンの混乱が解消する。半導体不足の課題やリスクは残るも改善基調となり、数量・金額ともに19年度水準まで回復する見通し。
自動車の部分品	2,947	▲16.2%	1,827	+58.5%	1,797	+0.2%	3,624	+23.0%	↑	3,691	+1.8%	主要輸出先である米中の経済回復を背景に19年度水準まで堅調に回復する見通し。	米中の経済回復に加え東南アジア諸国の回復を見込み、数量・金額ともに19年度水準を上回る見通し。
船舶	1,097	▲22.3%	494	▲3.1%	471	▲19.9%	964	▲12.1%	↓	908	▲5.8%	世界的なワクチンの普及による経済活動の回復により、受注は回復傾向にあるものの、中国・韓国メーカーの安値攻勢は変わらず、20年度を下回る見通し。	21年度以降は、新型コロナウイルスの影響から回復するも商船建造事業撤退により、21年度比減は避けられない見通し。ただし収益好調な船会社側から、二酸化炭素・イオウ酸化物排出削減設備を配備した新型船舶の追加受注の可能性は残る見通し。
EX 09 その他	9,525	▲5.3%	5,753	+30.0%	6,040	+18.4%	11,793	+23.8%	↑	11,926	+1.1%	海外経済の回復に伴い大幅増に転じる。	海外経済の回復が続くなかで、科学光学機器を中心に21年度を上回る水準に。
科学光学機器	2,010	▲5.3%	1,144	+22.8%	1,200	+11.2%	2,344	+16.6%	↑	2,406	+2.7%	主要国で新型コロナウイルスが収束し、世界的な経済活動の再開に伴い、中国や欧米のスマートフォン市場は、半導体不足の影響が出るも、中高価格帯の機種が伸びたことを背景に堅調に推移。加えて、内視鏡など、検査機器も好調であることから、20年度の反動増により、19年度水準を上回る見通し。	中国や欧米など主要国で経済正常化し、緩やかな成長ペースに落ち着くも、スマートフォン市場や医療検査市場は好調を維持し、21年度水準より微増する見通し。

\*2021年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。